



Introducing my town

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県常陸大宮市です。筑波銀行大宮支店長が常陸大宮市長 鈴木定幸氏にお話を伺いました。

企業家目線を活かし、 市民の経済的豊かさを目指す

私は、大学を卒業して石油系企業に勤務した後、石油販売会社の経営者となり、その後、兼業で茨城県議会議員の職を3期務め、2020年4月、第3代常陸大宮市長に就任いたしました。

就任直後から、新型コロナウイルス感染症がもたらす未曾有の事態に直面しましたが、本市職員と一丸となり、国県の支援を受けながら、現在まで感染防止対策や生活支援対策、地域経済対策などに取り組んできたところです。

企業経営者でもある私の政治要諦は、「市民の経済的豊かさ」です。市民所得の向上に主眼を置

いた施策を展開することが、私の使命であると考えております。

市民所得向上のためには、市内総生産(国で言えばGDP)を拡大する必要があり、その約6割は、個人消費が占めています。したがってメインエンジンである消費の減少を招く人口減少という問題を放置し続けることは、地域経済の衰退を招き、ひいては市民所得に対するマイナス圧力となってしまいます。

市長就任2年目となる今年度は、私の挑戦を本格的にスタートさせる年度です。今後は、企業経営者としての視点や庁内外から提案される新たなアイデアも取り入れながら市政運営を行い、更なる人口減少対策に取り組んでいきたいと考えています。



常陸大宮市長 鈴木 定幸 氏

経済活性化の環境づくりと 民間感覚を持った行政運営の徹底

地域経済活性化のためには、民間企業が本市を選び、積極的に事業投資したくなるような環境を整える必要があると考えています。そしてその為にはしっかりとした需要を創出することが一番です。しかしこれは基本的に国のマクロ経済政策に依るところが大きく、市として取り組むべきは人口減少を抑制するとともに、進出しようとする企業に寄り添い、企業のニーズに的確に応えていくことだと考えております。

例えば、本市での事業展開を希望する企業などが現れた際、行政側にその実現を適切に支援できる体制が整っているか。あるいはスピード感のある対応ができる体制になっているかなど、企業満足を追求する民間的な感覚を行政側が持つことも重要だと思います。

「集中と機動」満遍なくという役所的発想ではなく、選択された事業に集中した資源投資を行うことが集中。機動は執行のスピード。これが大切だと認識しております。

地域資源を整備・活用し、 若者が住みたいまちに

今年度4月には、「JR水郡線常陸大宮駅周辺整備」を進めてきた駅周辺整備推進室を課に格上げしました。私の政策の「一丁目一番地」であり、魅力あるまちづくりの出発点と考えているがゆえの格上げです。

また、若者が「常陸大宮市に住みたい」と思えるような移住・定住施策を総合的に推進するべく「定住推進課」を新設しました。ソフト・ハードの両面から、人口減少の抑制に挑んでいきたいと思えます。

現在、進学や就職などで多くの若者が常陸大宮市を離れつつあります。彼らには国内のみならず世界で活躍して欲しいと思っています。でも、第一線を退いた後のセカンドライフにおいては、本市での暮らしも選択肢として考えて欲しい。そんな思いから郷育を推進し、郷土への愛着を育むとともに、ストレスがなく住みやすいまちづくりを目指しているところです。

その一方で、本市の魅力を広く発信したり、本市の地域資源を活用した体験ツアーを企画したりして、本市への移住・定住に関心を持つ若者を増やしていきたいと考えています。

例えば、本市には耕作放棄地がたくさんありますが、これを地域資源と捉え、農地の再生から作付け、収穫、そしてそれらを食するまでを体験できるツアーを造成し、あまり土に接する機会の少ない都会の人向けに提供することも考えられます。地元の温

浴施設や宿泊施設と組み合わせると、より楽しい企画になるのではないのでしょうか。

豊かな河川環境の魅力を 世界へ向けて発信

本市には、久慈川、那珂川という2つの一級河川が流れております。両河川とも四季折々の顔を持ち、多くの人々が観光やレジャーに訪れます。

この2つの河川をメソポタミア文明のチグリス・ユーフラテス川になぞらえ、日本のメソポタミアとしてSNSで発信したところ、意外にも日本人より外国人からのアクセスが多いことがわかりました。観光だけでなく、移住・定住についても、固定観念に捉われることなく、世界をターゲットにしていきたいと考えています。



那珂川でのカヌー教室

有機農業の一大拠点整備で 農業と経済の活性化を図る

これまで、県北地域の活性化を図るべく様々なイベントが行われてきましたが、今後、市内の経済を活性化するためには、持続性のある施策展開が必要になります。

そこで本市では、茨城県との共同事業として、三美地区の農地を活用し、農業法人を受け入れ、有機農業の一大拠点を整備する予定です。

現在、世界的潮流は有機農業であり、日本でも有機農産物の需要は伸びていくものと確信しています。農業従事者が減少する中、同事業に対する地域の方々からの大きな期待を感じており、県と連携したうえで、しっかりと成功に導きたいと思えます。



三美地区における有機農業研修会

多方面の知恵を結集し、 まちづくりに活かす

コロナ禍で、市内の宿泊施設など観光業が大きな影響を受けたことから、本市は独自のGoToトラベル事業として、8月から「常陸大宮再発見！ひたまる旅行」を開始します。利用対象者は、市民と市内に通勤する方で、市内での宿泊費の一部などを市が補助する仕組みです。

ちなみに、この事業は職員のアイデアです。庁内には個性豊かな職員がたくさんおりますので、例えば、アイリスオーヤマ株式会社（本社：宮城県仙台市）が行っている「週イチ社長プレゼン会議」などを参考に、職員が積極的に意見を言える機会とアイデア実現の場を創出したいと考えています。

また、9月からは、「常陸大宮市観光資源発掘&ブラッシュアップ支援事業」を開始します。この事業は、外部の目線で本市の魅力を再発掘し、今後地域が一体となって進める新しいプランを提案して頂く事業です。どのようなプランになるのか、とても楽しみです。

地域振興は「1日にして成らず」です。雑誌などで華やかな成功事例を拝見しますが、いかに持続発展させるかが重要であり、それは地域振興も企業経営も同じです。今後も多方面からの知恵を結集し、地域経済活性化のために尽力していきたいと思えます。

筑波銀行への期待

長年、地域に根差した銀行の一つとして、大変頼もしく感じています。また、筑波銀行グループである筑波総研株式会社には、本市の各種計画の策定に携わって頂いており、感謝申し上げます。

銀行が保有している情報は、本市の経済活性化施策を構築する上で大変役立つものだと思いますので、是非、引き続き情報共有・提供をお願いしたいと思います。

また、企業経営者の立場と経験から言わせて頂きますと、安心して付き合える金融機関はやはり地方銀行です。地銀は、地域の企業に真摯に寄り添って頂けると感じていますので、これからも本市の地域経済活性化のため、筑波銀行グループからのお力添えをお願いしたいと思います。

(取材日：2021年7月19日)



筑波銀行大宮支店 千葉支店長